

「人生は出会い」 秋元 康

売れっ子作詞家で、AKB48、乃木坂46、欅坂46のプロデューサーで、ほぼ全ての楽曲の作詞をし、番組の企画構成やドラマの脚本なども手掛けている。日本のポップカルチャを作り上げてきた秋元 康、は「人生は出会い」で決まるといっています。高校生の時、初めて投稿した放送原稿が局の目に留まり、遊びに来るように言われ、その後、色々なアドバイスを受けたという。ラジオ局、放送作家、テレビ局の人々、美空ひばりさんはじめ多くの方々とのお出会いが「今日の自分を作ってくれた」と言っている。人生そのものが川のようなもので、17歳の夏以降、好奇心を持って、自分で楽しいと思うことをやってきたら今になった・・と言っている。また、秋元さんにとっての定年は？と聞かれ「好奇心が無くなった時」だと答えています。

■目黒区大橋に生まれる。サラリーマン家庭の2人兄弟の長男。1985年の夏、高校3年の17歳の時に、勉強用の机で書いたパロディをニッポン放送に送った。亀淵昭信(のちに社長)と、大橋巨泉事務所所属の放送作家グループに所属していた奥山悠伸の目に留まった。このような経緯の後、ニッポン放送へ遊びに来るように言われ、出入りするうち奥山の弟子となり同グループに所属した。中央大学文学部入学後、放送作家として活動を始めた当初は放送作家をアルバイトと考えていたが、当時のサラリーマンの4倍近い収入を放送作家業によって得ていた。



■その後、放送作家業に物足りなさを感じていたこと、放送作家という職業の将来性に不安を感じていたところ、亀淵からPMP(後のフジパシフィックミュージック)の朝妻一郎を紹介され、それを機に作詞を手掛けるようになる。

『ザ・ベストテン』、『オールナイトフジ』、『タヤけニャンニャン』の構成を担当して高視聴率を挙げる一方、さまざまなジャンルの楽曲の作詞を手掛ける。小泉今日子「なんてったってアイドル」、とんねるず「雨の西麻布」などの曲をヒットさせる。

1985年からは女性アイドルグループ「おニャン子クラブ」の楽曲を手掛けメンバーを次々とソロデビューさせ、その際に全楽曲の作詞・プロデュースを担当した。1986年のオリコンウィークリーチャート52週のうち36週でおニャン子クラブ関係の楽曲が1位を獲得。1987年には長者番付の「その他」部門で16位(納税額1億61万円)となる。

■1988年、おニャン子クラブのメンバーだった高井麻巳子と結婚。

■同時に渡米してニューヨークに1年半ほどイーストリバー沿いの高層マンションに滞在した。日本で嵐のような生活から距離を置き、基礎を学びたいと思った。

■帰国後、美空ひばりの遺作となった「川の流れるように」1989年、作詞を担当。これによって作詞家としての地位を不動のものにした。NYで毎日見ていたイーストリバーの流れが歌詞のヒントになった。初めてひばりさんに会った時、「あなたのことは知っているわよ!、これいい詩ね・・・」と褒められ、運命的なものを感じた。好きにおやりなさい!とも言われた。ひばりさんは、川は周りにくったり、まっすぐだったり、どんな川も最後は海にそそぐのよ・・とも言っていた。

「川の流れるように」 美空ひばり 詞:秋元康 曲:見岳章

知らず知らず 歩いてきた
細く長い この道
振り返れば 遥か遠く
故郷(ふるさと)が見える
でこぼこ道や 曲がりくねった道
地図さえない それもまた人生
ああ 川の流れるように ゆるやかに
いくつも 時代は過ぎて
ああ 川の流れるように とめどなく
空が黄昏(たそがれ)に 染まるだけ



生きることは 旅すること
終わりのない この道
愛する人 そばに連れて
夢 探しながら
雨に降られて めかるんだ道でも
いつかは また 晴れる日が来るから
ああ 川の流れるように おだやかに
この身を まかせていたい
ああ 川の流れるように 移り行く
季節 雪どけを待ちながら

ああ 川の流れるように おだやかに
この身を まかせていたい
ああ 川の流れるように いつまでも
青いせせらぎを 聞きながら



■2005年、東京・秋葉原で女性アイドルグループ「AKB48」を立ち上げ、総合プロデューサーに就任。専用劇場で毎日公演を行う「会いに行けるアイドル」を標榜した。当時の秋葉原は、社会現象を巻き起こしていた書籍・ドラマ・映画『電車男』において描かれた「美少女アニメ・ゲーム」「メイド喫茶」「リュックサックを背負ったオタク男性」のイメージで認識されていたため、AKB48も「アキバの萌えアイドル」といった地下アイドル的な位置付けであったが、10thシングル「大声ダイヤモンド」以降徐々に一般の人気を上げ、2010年以降はシングルCDにおいて100万枚を超える売り上げを記録するようになった。2010年初頭、インタビューで秋元は「将来は国内7大都市に劇場を建て、選抜メンバーでJAPAN48を作りたい」と語り、実際に国内外に多数の姉妹ユニットを設立している(名古屋・栄のSKE48、大阪・難波のNMB48、福岡・博多のHKT48、インドネシア・ジャカルタのJKT48、中国・上海のSNH48、タイ・バンコクのBNK48。国内7大都市ではないが、2015年には新潟にNGT48、2017年には瀬戸内7県にSTU48が設立された。

■作詞家として、シングルの総売上が、2013年2月27日付ランキングまでの通算で計506作品約6859万1000枚に達し、それまで1位(約6831万9000枚)だった阿久悠を抜き、作詞家歴代1位となった。うちAKB48が約3割にあたる約1998万7000枚を占めている。